



三笠市立図書館 (2/2)

「炭鉄港(たんてつこう)」を知っていますか？

美しくも厳しい自然の中で、空知の「石炭」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」とそれらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。

炭鉱の歴史は決して明るいものではない、観光産業に繋げるのは難しいのではないかと、言葉を受けつつ、そうではないと産業歴史遺産として後世に残す活動に尽力をされたのが、幌内ご出身で夕張市石炭博物館館長も務めた吉岡宏高さんです。

「炭鉄港」は日本遺産にも認定され、全国から三笠市は勿論、炭鉱のあった地域、室蘭市、小樽市へ見学に来るようになります。吉岡さんの著書『明るい炭鉱』創元社(2012年刊)に詳細が綴られています。2022年(令和4)年、お亡くなりになり残念でなりません。是非ご一読いただきたい1冊です。タイトル、良いじゃないですか！

三笠市はアンモナイトの宝庫！日本で一番大きなアンモナイトが三笠市立博物館に展示されています。世界で一番大きいとされているアンモナイトの模型も展示され、もはや怪獣の世界です。私は単にアンモナイトって貝なんだろうから、網焼きで醤油かけて食べたら美味しいんじゃないとか、ワイン蒸しはどうだろう？と見学しながら想像してしまいました。でも当時人類がそのような調理したりするどころか、人類が存在していないか？と博物館でぼんやり考えていました。(こんなことばかり考えています。)

北海道はアンモナイト、恐竜の宝庫です。三笠市のエゾミカサリュウ以外にも滝川市、むかわ町などで発掘されています。私は全然詳しくないのですが、恐竜が現在生存したらどのような存在だったのか。人間はどのようにして恐竜に向かい、もしくは共存するのでしょうか？

とにかく三笠市のコンテンツはとてつもなく多く、「三笠ジオパーク」として屋内、屋外の見学スポットがてんこ盛り。しかし、屋外の見学はクマもたくさんいるので本当に気をつけないといけません。

三笠市立図書館は、市役所や市民会館など町の中心にある年季の入った建物です。図書館としては小さいですが、ゆっくり郷土資料を拝見したいものです。それほど文献が保存されていないとのことですが、三笠市立博物館にも図書コーナーがあります。

2016(平成28)年、NHK朝の連続テレビ小説『とと姉ちゃん』のモデルとなった雑誌『暮らしの手帖』を創刊した大橋鎮子(おおはししずこ)は、父親の転勤で三笠市萱野(かやの)に住んでい

たこともあります。父親は日本製麻株式会社萱野工場長として勤務していました。図書館では大橋鎮子コーナーを常設しています。

三笠市で今一番のホットスポットを1つ。図書館の並びにある北海道三笠高等学校も注目です。道内の公立高校で唯一の食物調理科単科校です。

生徒が調理・接客を担当、料理やスイーツを一般客に提供し、腕を磨くレストラン(研修施設)があります。調理部が運営する「まごころきっちん」では道産食物を中心に料理を、製菓部が運営する「Cherie(シェリー)」では、生徒が試作から商品化まで一貫して行った洋菓子を提供しています。施設名はフランス語で「飛翔」の意の「ESSOR(エソール)」と付けました。カリキュラムの一環で調理、生産、販売など行なっているので、いつでもすぐ食べることはできません。営業時間など確認して訪問してください。図書館からも近いです。

次回は是非食べてみたいですよ。美味そうですよ。

<https://mikasa-highschool-restaurant.com/open-reserv>

2024年4月訪問

加藤 重男

(次回は8月16日配信予定)